『政治経済』　シラバス

このシラバスは、政治・経済ではこの一年間どのような授業が行なわれるか、またどのように評価が行なわれるか、そしてどう学習すればよいかを明らかにしてくれるものです。よく目を通してイメージを膨らませてください。

教　科	公　民	科　目	政治経済	単位数	２単位	学　年	２年生
使用教科書	『政治経済』（〇〇社）						
副　教　材	政治経済資料集（〇〇社）　政治経済用語集（〇〇社）						

１．なぜ政治経済を学習するの？

皆さんは、社会の中で生活しているわけですが、高校生という時期は、人生の中でも最も多感な時期で、価値観を形成する上でも重要な時期となります。この授業では、将来の日本を支え、世界を背負って立てる人間を育てたいと思っています。高校生であればこその社会に対する見方や考え方、社会に対する思いがあるはずです。将来、皆さんは紛れもなく社会を支えていきます。どのような社会を支え、どのような社会を創っていくのか。そのために、高知県のニュースや身近な問題に関心を持ってもらいたいと思います。「地域は世界の縮図である」といわれます。すべてではないのですが、地域の問題は国・世界の問題、課題に反映しています。地域を学習することを通して、地域の構成員たる「シチズンシップ（市民性）」を高め、地域や国・世界に対して主体的な問題意識が持てるようになってください。

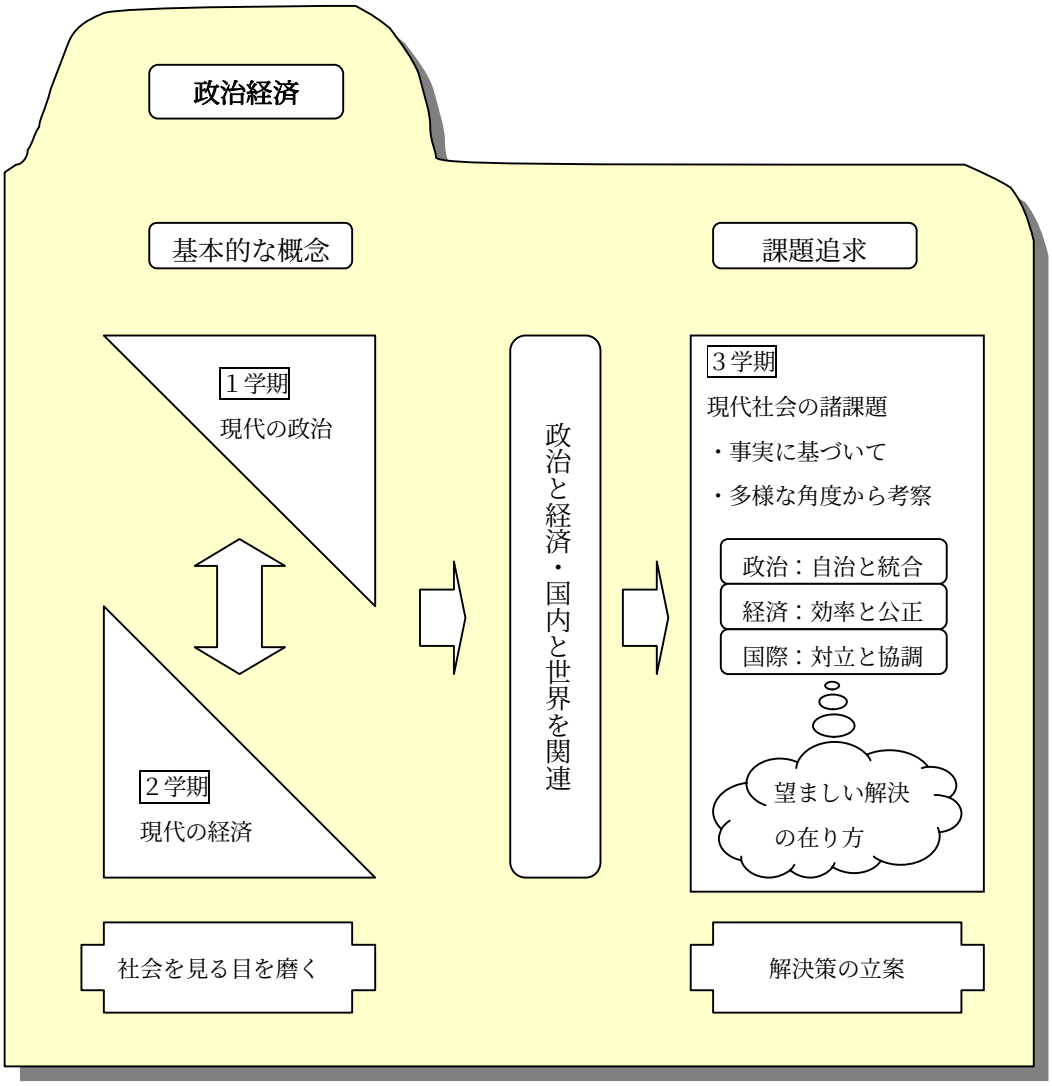
また、現代は情報技術の飛躍的な進歩によってインターネットや携帯電話から手軽に情報を収集できます。しかし、その手軽さがかえって情報の渦を招いています。情報の渦の中で、「正しいことを見抜く力」や「情報選別能力」を身につけて欲しいと思います。そのためには、まず客観的な見方や考え方、判断力を獲得することが必要となります。だからこそ、政治・経済を学習する意味があるのです。

以下に政治・経済を学習することで身につくことをあげておきます。

① 政治、経済、国際関係の原理を通して、社会が鮮明に見えるようになります。
② 政策の立案過程を通して、自分と異なる意見も尊重できるようになります。
③ 社会に対する自分の意見を客観的に吟味し、他者にわかりやすく発信できるようになります。

２．学習の全体像

以下の図は、政治・経済の学習イメージです。まず、一・二学期に政治と経済の基本的な概念を学習します。その学習を通して、社会を見る目を磨いていきます。その前提条件として、やはり知識という土台が必要です。社会の動きを知るためにはある程度の知識がないと、課題を見つけたり、批評したりすることはできません。この土台を基に、三学期には政治と経済、国内と世界を関連させ、「現代社会の諸課題」について望ましい解決のあり方を模索していきましょう。



３．学習方法

予習･･･学習内容について教科書を読み、理解できなかったことや疑問に感じたことなどについてノートに書き出してみましょう。また、日常的に新聞やテレビのニュースを見る習慣をつけ、社会の動きに目を向けましょう。
また、地域のニュースに関心を持つよう意識してください。(^o^)ノ

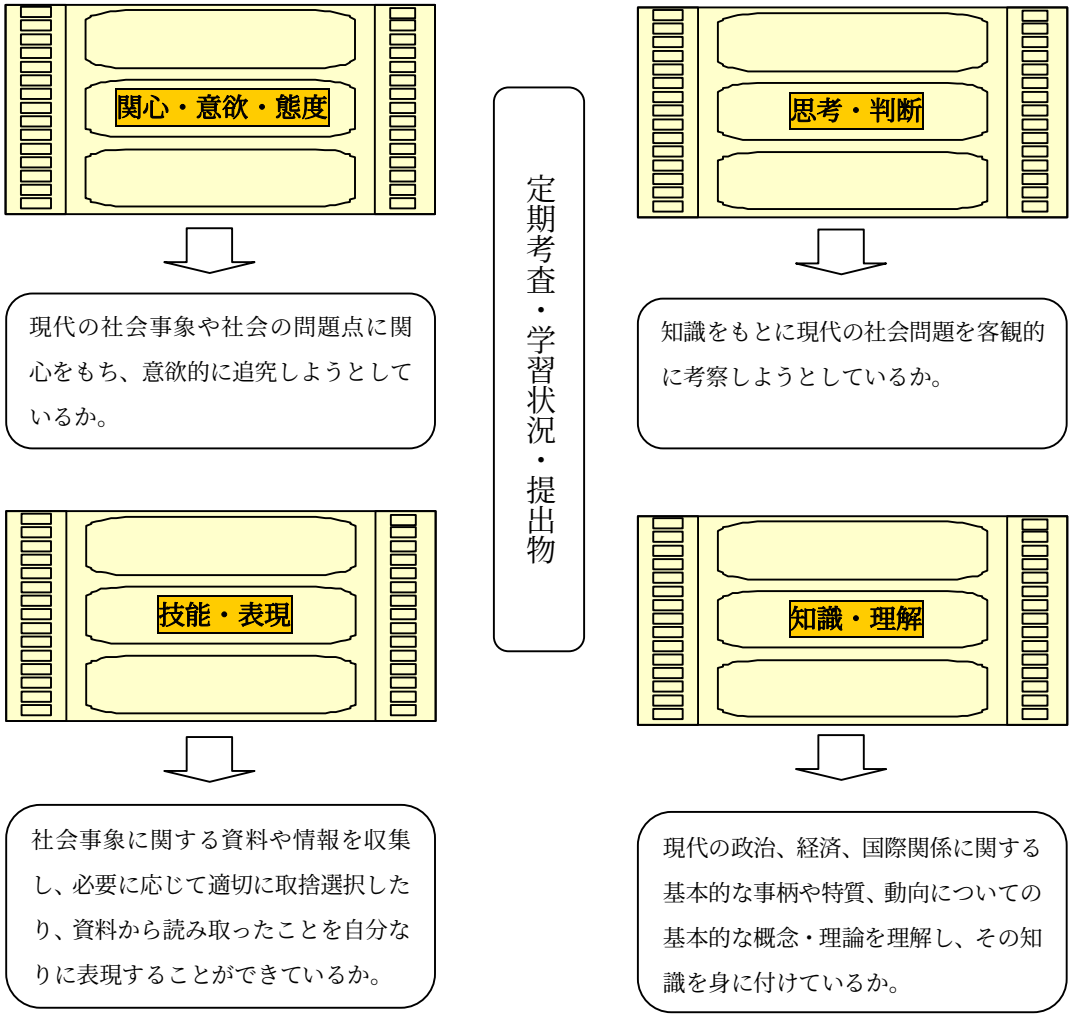
復習･･･①「授業プリント」をもとに、基本事項を整理し、理解を深めましょう。
②理解できなかった部分は、積極的に質問するよう心掛けましょう。
③「単元シラバス」等を活用し、関連事項について自分で調べてみましょう。
④「興味関心」の種である資料集をよく読みましょう。

ノートの取り方･･･活用するノートは好みもありますが、Ａ４版のノートを使用してみてはどうでしょうか。記入するスペースはＢ５版のノートの比になりません。多くの情報がノートに記入でき、学習に必要な資料や写真等の貼付も自由にできます。授業で活用する「授業プリント」には、板書事項のみならず、重要な内容についてはメモを取るよう心掛け、学習内容を整理しましょう。もちろん、授業で使用したプリントをノートに貼り、自分なりの工夫をしてこだわりのあるノートを作成してください。また、資料集等で参照したページ等も記入し、単元テストや定期試験対策として活用しましょう。さらに、重要語句については、ノート横や空きスペースに書き出して理解を深めるための一助としてください。「用語理解」は政治経済の実力をアップする近道となります。地道な努力を期待します。

授業について･･･政治･経済の学習は、皆さんの生活と切り離されたものではありません。学習内容と生活が、あるいは社会の出来事とつながっていくことに政治･経済を学習する意味があるのです。したがって、授業には積極的に参加してください。常に、私たちが生活していくうえで疑問に思うことや社会の出来事などに関心を持ちながら授業に臨むようにしてください。

４．評価について

評価については、次の４つの観点から行います。



このため、具体的には次のものを評価の対象とします。

・年５回の定期考査（各考査の範囲は、考査直前までの学習内容を基本とします。）

・授業中の発問に対する回答を記入した質問用紙、プリントなど

・課題追究学習のレポートや長期休業中に課された課題の達成状態

・自己評価、発表評価、授業評価の際に記入したプリント

※　皆さんの理解度等を確かめるために、自己評価や発表した内容に対する生徒同士の相互評価、皆さんによる授業評価を実施します。

・学習活動の取組状況（作業への取組・成果、授業中の発言の内容等）

また、１年間の評定は、１～３学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。それゆえに、ペーパーテストで高い点数をとったとしても授業態度や提出物等の状況いかんでは、自分の思っているような評定がつかないかもしれません。

５．評定の付け方について

評定については、以下の表を元に１～５の５段階で学期ごとに表されます。なお、出欠についてですが、総時数の３分の１を超えて欠席していると、いくら素点がよくても評定１になるばかりか進級できなくなってしまいます。十分認識しておいてください。

↓

次いで、評定の基となる素点の算出法についてですが、次の４観点からそれぞれの割合で、定期試験・学習状況・提出物を基に算出します。

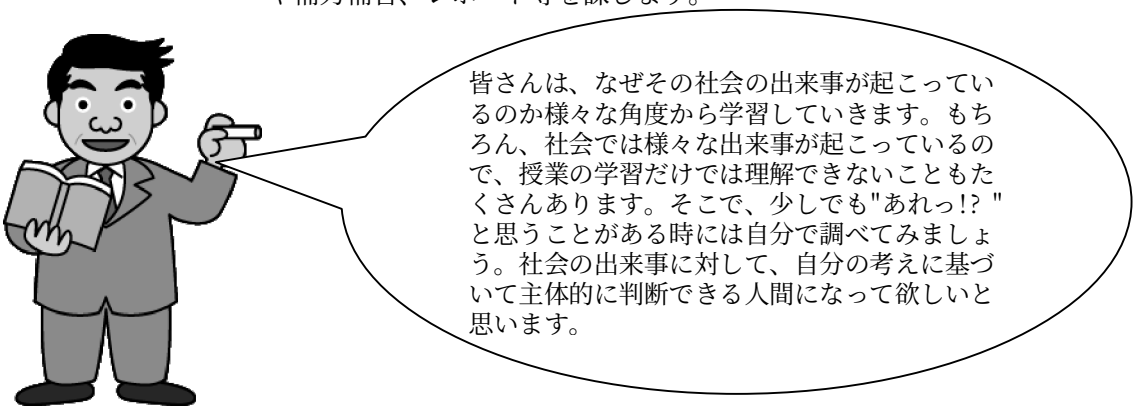
	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
定期試験【60 点】		25 パーセント（15 点）	25 パーセント（15 点）	50 パーセント（30 点）
学習状況【20 点】	50 パーセント（10 点）	20 パーセント（4 点）	30 パーセント（6 点）	
提 出 物【20 点】	20 パーセント（4 点）	30 パーセント（6 点）	30 パーセント（6 点）	20 パーセント（4 点）

定期試験…定期試験では、「**思考・判断**」、「**技能・表現**」、「**知識・理解**」の三観点を問う問題を出題します。上の表に示しているように、配点は **25・25・50 パーセント**の割合となっており、それぞれの観点に沿った問題となります。

学習状況…普段の学習状況については「**関心・意欲・態度**」が評価の土台に据えられます。ただし、より客観的に評価するため、授業評価の際に、質問形式で問いかけをします。そのときはできるだけ詳しく回答してください。また「**思考・判断**」、「**技能・表現**」についても、授業中に配布したプリントへの記述状態から評価しますので、しっかりと考えてうまく記述してください。

提 出 物…学習状況に応じた様々な作業プリントやノート、レポート等について、４観点から評価し、上の表の割合で点数化します。

↓

※ 以上のものを総合的に評価し、評定を割り出します。

成績不振者への対応…１・２学期に欠点（評定１）がついた場合には、長期休業中に面接や補力補習、レポート等を課します。